

平成30年度

ほおの木っ子

喜多方市立第二小学校 学校だより

平成30年11月26日(月)第24号

発行責任者 校長 石田 秀喜

<笑顔いっぱい/元気いっぱい/夢いっぱい ~やり続けて本物にしよう・こつこつがコツ!~>

「発想・想像力の豊かさ」



左の絵は、6歳の子どもがかいた絵です。この絵の意味するところは、説明するまでもありません。この子にとって、山は月のおうちであり、その中には二日月、三日月、四日月と、満月になるまでのお月様がいて、毎晩仲良く順番に出てくると、いつも月を見ながら思っていたのだと思います。そして、この子はやがて宇宙物理学の研究に進んだということでした。

このように、子どもたちは、いろいろなものを見たり感じたりして、子どもならではの想像力を働かせて、素敵な発想をします。そんなみずみずしい感性を、まずは無条件に受け入れてあげることが大切にしていきたいものです。そんな中

第64回 福島県発明展 「学校賞」を受賞!!

本年度も喜多方市発明展に、本校から多くの児童が出品し、以下の児童が素晴らしい賞に輝きました。皆さんの作品が県審査に進み、6年の野邊真羽さんの作品「肩ひもずれても安定カバン」が県産業振興センター理事長賞に輝き、そのほかの皆さんの作品も大変レベルの高いものだったということで、本校が小学校の部で1校「学校賞」をいただきました。

なお、野邊さんの作品は現在全国審査を受けています。

■喜多方市長賞 6年/野邊真羽さん ■教育長賞 6年/赤城健太さん

■奨励賞 6年/石川紗姫さん 6年/富山夢叶さん 5年/高橋朋生さん 4年/小椋光希さん



福島県知事様より



福島県発明協会会長様より

「ミニボラ」の姿が...

先日のある晴れた日のお昼休み、何気なく校庭の片隅に目をやると、落ち葉を集める子どもたちの姿がありました。



聞けば、4年生のある児童が、校庭のプール側にあるケヤキの落ち葉が気に入り、自主的にほうきを持ってきて掃いてくれていたそうです。それを見ていたほかの学年の子どもたちもそれぞれに道具を持ってきて「枯れ葉掃き大作戦」となったようです。

1年生から6年生まで次々に集まってきて、あっという間に落ち葉の山に。それを、一輪車に段ボールを乗せて、かさばる葉っぱを効率よく畑の近くの堆肥枠まで運んでくれていました。

「気づき・考え・実行する」態度が子どもたちの中に育っています。

このように、ささいなことでもいいので、みんなのためになることを進んで実行できるミニボランティアの気持ちをさらに育てていこうと考えています。

